

絵本から広がる子育て支援 - 恵庭市ブックスタート追跡調査結果をとおしてー
平成 17 年 10 月 18 日開催 市民フォーラム「あったか やわらか ゆったり子育て
ブックスタートで深まる親子の絆 」基調講演から

はじめに

講師の梶浦真由美氏（北海道文教大学短期大学部幼児保育学科助教授）による恵庭市ブックスタートアンケート調査は、当該事業開始時から今回で 3 回目を数える。

当講演では、今年 5 年目を迎える恵庭市ブックスタート事業の追跡調査結果について、現代の母親への子育て支援対応と子育て支援策としてのブックスタートの両面から解説。

当該調査では、ブックスタートパックの配付を受けたと答えた配付家庭と受けていないと答えた無配付家庭との比較を行い、父親の育児協力や図書館利用等の両面から大変興味深い結果を得ることができた。

子育て支援の一環としてのブックスタート

わが国の子育ては、従来「私事」的なものであった。しかし、子育てを取り巻く環境の変化により、1980 年代後半頃から徐々に子育てを社会が支えていく必要性が広く唱えられるようになった。特に、1990 年の合計特殊出生率が 1.57 をきったことをきっかけに、本格的に国が子育て支援策を具体化した。当初は少子化対策の一環として、共働き家族を対象にした子育てと仕事の両立支援や、保育所サービスの拡充など子育てしやすい環境整備を主とするものであった。しかし、「父親不在」の中で母親による孤独な育児が展開されることによる様々な問題が顕在化してきた。このような状況下で、子育て支援策もすべての子育て家庭を対象に実施されるようになったが、まだ日は浅い。

ブックスタートは、絵本を通し親子が楽しい時間を共有し絆を深めることを目的としている。恵庭市では、子育てに関して、夫婦が共に力をあわせて取り組むことを応援する子育て支援運動として位置づけている。また、子どもと親が地域社会の中で温かく子育てできる環境が必要だが、恵庭市のブックスタートは、様々な機関やボランティアが共に連携・協力し、地域で子育てを支援している。

調査の方法

調査期間	2004 年 9 月～2005 年 3 月
調査対象	3 歳児健診受診対象者
調査方法	調査票を保健センターからの検診案内を通じ郵送、検診時に回収
回 答	有効回収票：311 票（パックを受けたと答えた配付群 204 票、受けていないと答えた無配付群 107 票）、有効回収率 85.0%
回答者の基本属性	性別：ほぼ同比率、第 1 子 2.5 割、第 2 子 4 割
家族形態	核家族：9 割
母親の職業	専業主婦：7 割 なお、調査票の回答者は母親である

調査結果概要

調査内容は、回答者の基本的属性 家庭での絵本及びテレビとの関わり状況 現在の育児の実態 育児や家庭に関する母親の意識 パック配付後の変化 自由記述から構成されている。今回は、時間（紙幅）の都合からそのうち、絵本とのかかわりや読書環境、家庭

での状況等についての項目を取り上げ報告する。

1. 読み聞かせ

「読み聞かせをしている家庭」は、配付群 8 割、無配付群 7 割。このうち「父親が読み聞かせをしている」は配付群 7 割、無配付群 5 割強（グラフ 1）。「子どもは読み聞かせがどの位好きと思うか」ではどちらの群も好きが多いが、「とても好き」は配付群 5 割、無配付群 3 割強で、好きな程度に両群で差がみられる（グラフ 2）。

2. 図書館利用

「お子さんを図書館に連れて行くことはあるか」では、あるが配付群 6 割、無配付群 3 割強（グラフ 3）。連れて行く回数は、配付群で無配付群に比べ多い方に偏っている（グラフ 4）。子どもを図書館に連れて行く時期は、配付群では無配付群に比べ早い傾向がある（グラフ 5）。これらは、ブックスタートパック配付時における図書館員の説明及び保健センター事業育児教室における司書の読み聞かせ指導の取り組み効果と推察される。

3. 家庭での夫婦の会話

「家族一緒の夕食の回数」で、家族で過ごす時間をみたところ両群で差はない。しかし、「子どもの話以外で、夫婦で会話をどの位しているか」では、無配付群の方に「あまりしない」や「全くしない」が多い傾向がある（グラフ 6）。

4. 「父親の絵本の読み聞かせの有無」と「子どもが読み聞かせが好きな程度」「子どもを図書館に連れて行くかどうか」「夫の子育て協力に対する妻の評価」「子育てに関する母親の意識」との関連

パック配付の有無にかかわらず、父親の絵本の読み聞かせの有無と「子どもが読み聞かせがどの位好きか」「図書館に子どもを連れて行くかどうか」「夫の育児協力に対する妻の評価」「子育てに対する母親の意識」との関連をみると、父親が読み聞かせをしている群では、していない群に比べると、子どもが絵本の読み聞かせがとても好き、図書館につれていく、夫が育児にとってもよく協力してくれる、子育てがとても楽しいと答える母親が多い傾向がある（グラフ 7～10）。

調査のまとめ

今回の調査では、ブックスタートがきっかけになり、父親の絵本の読み聞かせを喚起する効果があることが示唆された。読み聞かせは、子どもの性別や年齢を問わず関わりやすい行為で、読み聞かせがきっかけとなり、父親による他の育児行為への参加が高まることも予想される。父親が絵本の読み聞かせをしている家庭では、妻による夫の育児行為の実態に対する高い評価や、妻自身の子育ての楽しさにも影響を及ぼすことが明らかになり、楽しく子育てできる環境整備への支援効果も伺える。子育て支援策としてブックスタートは、大きな役割を果たしていると評価できるだろう。

市立図書館の利用についても利用頻度、利用時期ともブックスタートの効果が著しく表われ、図書館が保護者一人一人に発信したメッセージの力だと考えられる。

ブックスタートの継続については「ぜひ継続してほしい」7 割、「継続してもよい」2 割をあわせると 9 割が肯定し、多くの母親が支持している。また、自由記述を記載する母親も多く、絵本に関わる家庭での子どもの姿がほほえましく記述されている。

ブックスタートを始めた地域は、この灯りを消すことのないように、子育てに関わる方々自らがこの事業を支え継続していくことを期待したい。最後に、調査にご協力いただいた方々に心から感謝いたします。